

また痛ましい交通事故のニュースだ。中には、未然に避けえた事故もあるかもしれないのに。

車が走ってくるのが見えない。人が歩いているのに見えない。事故は、起きて当たり前だ。視野（見える範囲）が狭くなったり、一部欠けたりすることを「視野狭窄（さうさく）」や「視野欠損」という。視野の真ん中が見えないということもある。多くは眼、脳や神経の病気が原因である。

眼の病気といえば、網膜剥離や緑内障、黄斑変性などはよく知られている。病気がある側の眼に視野狭窄や見にくいといった症状が出る。大概、片方の眼である。これに対して、脳梗塞や脳腫瘍などの脳の病気では、両方の眼に視野狭窄が起きる。

例えば、左側の後頭葉に脳梗塞ができたとしても、後頭葉は、視覚の中核である。以来、右眼で見ても、左眼で見ても、脳梗塞と反対側の右側の視野半分が暗くなる。まっすぐ前を回ってテレビを見つづると、右半分の画面が見えないのだ。これを、医学的には、「同側半盲」と呼ぶのである。

また、視神経の奥にある下垂体というところに腫瘍ができると、右眼も左眼も、耳側半分が見えなくなる。これを、「両耳側半盲」と呼ぶ。

ま、そんなややこしい名前なんかどうでもよい。でも、もしも読者が、「ものが見にくい」とか、「見づめつづるとは」「見づ確認してほしいことがある。見にくいのは、片方の眼だけか？反対側はどうか？片方の眼を手で隠して、見にくいのは真ん中か、耳の方が鼻の方が、上の方が下の方かを調べてほしい。

片方の眼だけならすぐに眼科へ。両方の眼に異状があれば、脳神経外科か脳神経内科を受診しよう。よく分からないひとは、まずは眼科で相談だ。それだけで、交通事故も少しは減るかもしれない。

（石黒修三＝いしほろくにニック・脳神経

外科医：117北國新聞掲載）